

モーニングカップ レポート

国際部 百野 郁子

4月10日から14日まで台北で開催された2014年第43回世界清晨盃羽球錦標賽に行ってきました。今回から甲乙の種別がなくなりレベルに関係なく楽しめるようになっていきます。

10日午前に出発した婦女隊一行は午後台北に到着。早速送迎バスに乗り込みました。ホテルでは日本語の堪能なスタッフが私達を迎えてくれました。おもてなしの心は万国共通。笑顔とハートが大事なのだと思います。

さて、10日夜のウェルカムディナーで大会は始まりました。各国から参加してきた選手・関係者の一部が招待され、プロの歌に続いてカラオケになり、私たちも「瀬戸の花嫁」を大合唱。好評を博しました。

11日から試合開始。参加者数約2300名 日本からの参加は約160名です。台北の気温は日によっては30度に達する蒸し暑さ。私たちにとっては暑さに慣れるのが少し大変でした。審判は1コート2名が交代で主審を担当され、ラインはセルフジャッジです。大会スタッフは朝の8時から夜の10時までずっと運営に携わり大変ハードだったと思います。行動費は日本と変わらないようです。

13日は婦女隊一行全員がゲームを楽しみ、夜はフェアウェルパーティーでした。日本から日本協会 今井専務理事、能登事務局長も出席され、盛大なパーティーで大会の幕が閉じました。

パーティーや試合会場で 国際親善の要項をたくさんの方にお渡しすることができました。新しくオーストラリア、シンガポールの方ともお友達になり、今年で20回を迎える記念大会への参加を呼びかけることができました。また昨年の大会に参加されていた香港やマレーシアの選手とも再会を果たし、今年の大会へもお誘いしました。このような活動を通じて少しでも多くの国やチームが国際親善に参加していただくことができればとの思いをもって帰国しました。



会場前で



表彰台



大会スタッフ

2014.04.24

韓国大会参加報告書

国際部部长

廣瀬園子

1. 大会名 2014国民生活体育全国レディースバドミントン大会
2. 日時 2014年6月7日(土)～8日(日)
*開会式 6月8日(日)午前11時
3. 会場 ビッコウル体育館
*住所 光州広域市西区グムファ路278
4. 主催 国民生活体育会
5. 主管 国民生活体育全国バドミントン連合会
国民生活体育光州広域市バドミントン連合会
6. 後援 文化体育観光団、国民体育振興公団、光州広域市、
光州広域市バドミントン連合会
7. 協賛 YONEX KOREA
8. 競技種目 女子ダブルス、混合ダブルス—84種目

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

日本で大会が多く日程調整がつかず、また韓国でのセウォル号沈没事故の後でもあり 本年は不参加としていましたが、韓国連合会から強い要請を受け、急遽訪韓し大会に臨みました。大会は韓国南部、光州広域市の開催であったためか外国からの参加は無く、日本選手団は丁重なる歓迎を受けました。

開会式では事故の犠牲者への黙祷がささげられ、例年のお祭りのような行進も自粛されていました。廣瀬が日本レディースバドミントン連盟を代表して韓国語で挨拶をし、事故への哀悼の意も表しました。それは韓国選手にも届き、盛大な拍手をいただきました。

光州市には敷地内に隣接した2つの体育館があり、約30面のコートが使用されていて、全国17市道から参加の選手は韓国らしいカラフルなウェア姿で、韓国婦人パワーが炸裂していました。試合は25ポイント1ゲームであり、コート間の狭さ、線審が付かない等、国際試合のルールとしてはやや不備な点が見られました。

全国バドミントン連合会女性部会長キム ヒャンリン氏や光州市婦人部会長キム ドンイ氏らと歓談し、光州市から国際親善大会へ参加していただきたいと案内をしました。

李成植連合会々長は女性部の活動推進を目標とされており、大阪の国際大会は大変勉強になることが多いので積極的に参加し、多くを学びたいという意向でした。国際親善大会が近隣国の目標となるならばとても意義ある事だと思います。

光州は仁川空港より高速バスで4時間以上の距離にあり、誠に厳しい行程でハードなスケジュールでしたが、李会長はじめ光州市関係各位の温かいおもてなしをいただき、秋季の来阪を楽しみに韓国を辞しました。



